



柿崎直治

選挙公約における新しい町づくり構想をどのように進めているのか

質問

町長は昨年二期目の選挙において元気でたくましい町、暖かくやさしい町づくりをマニフェストとして公約、当選された。しかし、依然として町の基幹産業である観光産業は低迷を続けている。そうした中で公約として町長が掲げた元気でたくましい町づくりをどのように進めているのか、町民は町長のリーダーシップに期待しているところであります。二期目に当選されてから間もなく半年になるうとして現在のマニフェストの中の主だった以下の施策についてそれをどのように進めているのか、伺います。

新たな町づくりのための行政機構の再構築
個性ある観光産業の育成
特色のある福祉、医療の充実
夢のある教育、子育ての環境整備
人口を増やす遊休地の有効活用
地域の力を活かした町づくりの推進

町長答弁

については、町の重要課題である保育園及び小学校統合を推進するために文教施設整備課を新設するとともに、企画財政班の職員を一名増やし、緊急課題に対応してゆきます。また、今後様々な分野で町民の皆さんと町づくりを考えてゆくと、町民参加条例の制定を検討して

います。

については、新規事業として第一回越後湯沢ユニバーサルウォークの開催、町食グルメグランプリの開催、温泉通り電柱埋設の推進など関連団体の皆さんと協働して幅広く事業を展開しているところであります。

については、当町も高齢化が進み5月現在で29.8%となっていて高齢者の健康づくりが重要な課題となっており、今後も高齢者の健康維持対策に力を入れてゆくと、また、今年度は湯沢病院に常勤の整形外科医を迎えることができ、地域の皆様方に喜んでいただいているものと思っております。

町民に約束したマニフェストはどのように進めているのか

質問

湯沢町観光協会について
申すまでもなく湯沢町の基幹産業は観光産業であり

た子育て支援を行ってゆくために文教施設整備委員会や保育園統合等に関する基本計画の策定を進めているところであります。小学校の統合につきましては文教施設整備構想を取りまとめ、保護者の皆様と地域の皆様に説明を行い、この構想の実現に向かっての決意を新たにいたしましたところであります。

現在観光産業に携わっている民間の方々が近隣の市町村と連携を持ち雪国観光整備事業計画を策定、観光産業振興と地域経済活性化のために頑張っていることをご存じと思います。そうした中で観光立町湯沢町における湯沢町観光協会の果たす役割とその位置づけは今後ますます重要なものになってくると考えます。そこで以前から議論されてきた協会組織の法人化に対して町の考え及び支援策等について伺います。

町長答弁

観光協会が自立をし、着地型の旅行商品の販売や様々な観光に関する独自の事業を展開し、リスクを負いながら自らの判断で資本を投下し収益に直結する積極的な事業展開をすることは非常に重要なことだと考えております。町としても観光協会が大きな潮流に乗り遅れることなく名実共に体制が整備され、皆さんの期待に応えられるように、出来る限りの支援をしてゆく考えであります。

一

般

質

問